

# ものを捨てる人、捨てられない人

## —キッチンリフォームからの考察—

○岡山慶子（共立女子短期大学）樋口恵美子（株式会社 LIXIL）栗林理恵（株式会社朝日エル）  
伊藤由貴（株式会社朝日エル）川浦康至（東京経済大学）

キーワード： 捨てる・捨てられない、自己評価、消費者意識

### 〈目的〉

昨年実施したキッチンリフォームとライフスタイルに関する調査ではキッチンリフォームをすることで、施主の気持ちが前向きになるという結果が得られた。

一方、昨今は「ものを捨てて整理する」ことがブームであり、ものを持つこと、捨てること（あるいは、捨てないこと）がクローズアップされている。

そこで今回は昨年の調査データを再分析し、キッチンリフォームをした人について、ものを捨てられるか捨てられないかが何によって規定されているのかを明らかにする。

### 〈方法〉

ウェブ調査、2010年11月実施。

#### \*調査概要

回答者 10年以内にキッチンリフォームを行った35歳以上の女性412名。

#### \*分析変数

今回の分析で用いる変数は以下の通りである。

年齢 (M=53.9, SD=11.63)、婚姻（「既婚」342名、「未婚」70名）、持物（家庭内にもものが、「多い」と思う322名、「少ない」と思う90名）、衝動買い（する「どちらかというと後先考えず買う」87名、しない「どちらかというと計画的に買う」325名）、思い出大切（思い出を大切に「する」378名、「しない」34名）、団欒重視（家庭の団欒を重視「する」356名、「しない」56名）、ものを捨てられる（ものを「あまり気にせず捨てる」142名、「不要でもなかなか捨てられない」270名）、ポジ変化\*（キッチンリフォームによるポジティブ変化度、M=73.4, SD=17.46）。

#### \*分析デザイン

「ものを捨てられる」を目的変数とし、年齢、婚姻、「持物」「衝動買い」「思い出大切」「団欒重視」「ポジ変化」を説明変数とする決定木分析を行った（分析にはJMPの「パーティション分析」を用い、最良分岐を求めた）。

#### 〈結果と考察〉

決定木分析の結果を図1に示す (r<sup>2</sup>=.108)。

「あまり気にせず捨てる」と回答した人（以下「捨てられ

る人」とする)、「不要でもなかなか捨てられない」と回答した人（以下「捨てられない人」とする）、それぞれ、どのような典型的特徴があるかを見てみよう。

捨てられない人の多くに見られる特徴は、年齢が49歳以上で、「どちらかというと計画的に買う」人で、「家庭内にもものが多いと思う」人である（図1の左側の流れ）。一方、捨てられる人が最も多かったタイプは「家庭の団欒を重視しない」、かつ「家庭内にもものが少ないと思う」人である（図1の右側の流れ）。それらの中間に位置するのが、「団欒を重視しない」で「ものが少ない」人、「思い出を大切にしない」で「どちらかというと後先考えず買う」、「ものが多いと思う」人である。

捨てられない人は、年齢が49歳以上で、計画的に購入しているが、家の中にもものが多いと思っている。

年齢が長ずるとともに、経験に基づくもの・思い出にまつわるものが増えることから、計画的に購入していてもものが増えざるを得ないと考えられる。

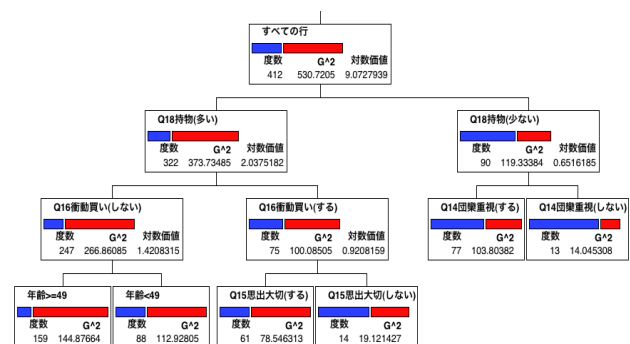


図1 「ものを捨てるか捨てられないか」に関する決定木分析

(キッチンリフォーム者412名) ■捨てる ■捨てられない

\*ポジ変化：キッチンリフォームによる主観的变化を問う22項目で「変化を感じた」を1、「変化を感じなかった」を0とした5件法の合計点(アルファ係数=.972)。項目例「友達が増えたと思う」「性格が明るくなったと思う」「人生がすてきに思えるようになった」。